



一般財団法人光産業技術振興協会
副理事長・専務理事 小谷 泰久

新年、明けましておめでとうございます。

政府が提唱する「Connected Industries」の実現のためには、IoT、人工知能、ビッグデータ、自動走行・モビリティサービスなど革新的技術の開発とその活用による新しいビジネスモデルと商品・サービスの創出が重要です。

一方、これらの分野に共通する課題として大量データの収集、伝送および利活用等での新技術開発が不可欠です。光技術は、例えば、データ収集においてはイメージセンサ、バイオセンサ等の各種センサ、データ伝送では 5G 時代を迎える無線通信と融合した高速・大容量の光通信システム、データ利活用においては次世代情報処理に必要な低消費電力の光電子集積回路、光電スイッチシステム等の重要な技術を多く含んでいます。

当協会では、これらの技術を含め、光産業技術に関する産学官の連携の要として、光技術に関する研究開発戦略、事業化戦略の策定を推進するとともに、関係機関への提案を通して、我が国光産業のイノベーションを推進してまいりました。

昨年は、「Beyond 5G に向けた次世代ネットワークの光テクノロジーロードマップ策定専門委員会」を設置し、光アクセス技術、光デバイス技術等のロードマップの作成を行いました。また、次世代コンピューティングの一つとして提案されている「ディアグリゲーション型データセンタ」を実現するための必須の技術である「光電ハイブリッドスイッチシステム研究開発プロジェクト」を開始することができました。この 2 つの成果については、2 月 20 日（水）にリーガロイヤルホテルにおいて開催する光産業技術シンポジウムで発表する予定です。

一方、国家プロジェクトとして推進されている「超低消費電力型光エレクトロニクス実装システムプロジェクト」も順調に研究開発が進み、第 3 期に入りました。さらには、車載ネットワークやデータセンタ内光コネクタなどの標準について IEC、ISO、各種フォーラム等の場での国際標準化活動を積極的に展開してまいりました。

本年も引き続き将来の光産業の発展のために、プロジェクト立案に向けての FS、技術戦略策定、光産業・光技術動向等各種調査、標準化事業や基準認証研究開発、シンポジウムや研究会などの普及啓発事業を実施して参ります。より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様方のご発展、ご健勝を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。